The Japan Language Testing Association JLTA

JLTA Newsletter

JLTA 外国語教育評価学会

August 10, 1997

Vol. 1, No. 1

もくじ

1…・・ JLTA Newsletter 創刊号に寄せて

2…・・学会・研究例会案内

3…・・ LTRC ・第1回全国研究大会

4…・・会誌・事務局より

発行 外国語教育評価学会©

代表者 大友 賢二

〒235 横浜市磯子区洋光台 6-29-6

電話・Fax 045(833)5610

JLTA Newsletter 創刊号発行に寄せて

会長 大友 賢二

本学会の名称は「外国語教育評価学会」で，その英語の名は The Japan Language Testing Association （略称 JLTA）である。1997 年 12 月 14 日に誕生して間もない学会が，この JLTA Newsletter 発行までたどり着いたことは，誠に喜ばしい限りである。まだ発足したばかりの学会にとって最も重要なことは，できるだけ多くの方々にこの学会の意義を伝えるために会員同士による意志疎通の場を設定することであると考える。その意味で，まず，JLTA Newsletter を発行することとした。創刊号発行に当たり，JLTA 設立の意義を考え，会員の皆様のさらなるご理解とご協力をお願いするものである。

外国語教育評価学会（JLTA）設立の目的は，わが国の外国語教育における測定と評価に関連する実践と理論の改善及び発展にある。わが国に見られる多くの外国語教育に関連する学会では，特に測定と評価を中心課題としたものはあまり見あたらない。なぜ，今，測定と評価という課題に焦点が当てられなければならないのであろうか。その理由の一つは，わが国の外国語教育では，ややもすれば，インプットに注目するあまり，外国語教育の全貌を見失ってきているのではないかという懸念があるからである。外国語教育に携わっている多くの人々がこれまで注目してきていることは，どのような教材で，どのような教師が，どのような方法を用いたらよいかという，いわば，学習者に対する「インプットの側面」を考察してきたように思われる。

しかし，学校における外国語教育に対して，社会は常に好意的であったとは言い難い。外国語教育の非効率さを憂い，高校入試から，そして，大学入試から英語を外すことが，英語教育の改善につながる道であるという考えさえ生まれてきている昨今である。社会からの批判だけではなく，狭い意味のインプットという視点は，外国語教育研究の蓄積という点からも問題が多い。研究の蓄積には，インプットした結果のデータが必要だからである。

確かに，中・高・大の 3，3，4 で 10 年という歳月をかけた割合には，わが国の学校教育としての外国語教育の評判は芳しくない。加えて，TOEFL（Test of English as a Foreign Language）の結果など国際的な視野に立ってみても，日本人の英語能力水準は，後から数えた方が早いほどの位置である。問題は，10 年という歳月をかけて外国語を学習・指導したということではなくて，10 年かけて行われた外国語教育が，学習者にどのような行動の（永続的な）変化をもたらしたかということである。いわば，学習・指導の「アウトプット」がまさに問われている時である。こうしたアウトプットのデータをもとに，外国語教育のインプットをどうするのが適切かをさらに深く考えることが今日の重要課題である。

外国語教育のアウトプットは，とりもなおさず，外国語教育の中の測定と評価の課題に結びつくものである。志を同じくする一人でも多くの方が，この「評価」の意義を考え，研究し，実践して，外国語教育の推進に貢献することを祈るものである。会員同士の話し合いの広場としての役割をこの JLTA Newsletter が十分果たしてくれることを心から願っているものである。

（常磐大学教授・筑波大学名誉教授）

外国語教育評価学会 The Japan Language Testing Association 略称：ＪＬＴＡ

本学会は，平成８年９月に５名（大友賢二，Randy Thrasher，石川祥一，中村優治，John D. Shillaw）の発起人によって学会設立の話し合いがもたれ，以後準備を重ねてきました。12 月 14 日（土）午後 1 時より上智大学中央図書館９階会議室にて，学会設立を兼ねて第１回研究例会を開催しました。当日は学会設立の趣旨に賛同して，大阪，京都，富山，仙台などから駆けつけてくださった先生方を含めて 28 名の方々が集まりました。第１回研究例会は大友賢二会長による「言語テストの諸問題―テスト理論の授業への応用―」と題する講演と，５件の研究発表が行われました。その後の懇談会で設立の経緯と趣旨の説明が行われ，本会の運営方法や会員同士の情報の交換の方法などを話し合い，今後の本学会の発展を祈念して発足の会を終えました。

＜研究例会便り＞

・第１回例会　平成８年 12 月 14 日（土）13:00～18:00　上智大学中央図書館９階会議室。講演　「言語テストの諸問題―テスト理論の授業への応用―」大友賢二（会長・常磐大学），発表　「日本語能力試験について」大坪一夫（東北大学），「リスニングテスト・アイテムバンクの実現可能性について」　中村洋一（長野県篠ノ井高校），'Linking a university examination to international standards' John Shillaw（筑波大学），'TOEFL, TOEIC, JACET and BETA: What correlations can and cannot tell us' Randy Thrasher（国際基督教大学） and Ishikawa Shoichi（防衛大学校）.

・第２回例会　平成９年６月 14 日（土）14:30～17:00　上智大学 10 号館 322。発表　「波及効果をもたらす大学入試とは？―授業研究からの報告―」渡部良典（国際基督教大学），「外国語学習者の能力レベルから見た中間言語の多次元性」安間一雄（玉川大学）。「LTRC97 参加報告」Randy Thrasher，中村優治（東京経済大学）。

LTRC in Orlando, Florida

The 19th Annual Language Testing Research Colloquium was held March 7 through 9, 1997 at the Holiday Inn Select in Orlando, Florida. Two half day workshops, one by F. Davidson on test statistics and another by Lyle Bachman and Buzz Palmer on basic language testing theory were offered on the day preceding the opening of the Colloquium itself.

The theme of the colloquium was Fairness in Language Testing. Keynote presentations were made by Henry Braun from ETS, explaining the late 20th century headaches of a mass testing program, by William Grabe of Northern Arizona University, asking testers to understand basic Reading theory, and by John Swales of the University of Michigan, reminding us that there are other languages than English that need to be taught and tested. There were a number of interesting presentations. One that seemed to me to be particularly appropriate for a conference on fairness in language testing was Rosemary Baker's Assessment of Language Impairment Across Cultures. She gave various tests designed to identify dementia in older adults to immigrants in Australia for whom English was a second language. She reported that the English language deficiencies of some subjects would have caused them to be misdiagnosed as suffering from dementia.

Again this year the organizing committee was able to avoid concurrent sessions and the number of participants was small enough to allow a lot of informal exchange. There were fewer participants from Japan than in the last several years, but our proposal to host the 1999 LTRC in Yokohama, just before AILA99 in Tokyo was accepted at the LTRC business meeting. Next year's LTRC will be in Monterey, California. (Randy Thrasher: ICU)

＜例会のご案内＞

・第３回例会：９月 13 日（土）14:30～17:00　上智大学６号館 210 にて，「大学英語入試問題を考える―読解問題を中心として―」清川英男氏（和洋女子大学），発表の後，参加者とのディスカッションを行います。参加費　1000 円（会員），1500 円（非会員）

・第４回例会：12 月 13 日（土）関西大学百周年館（内容調整中）

1998 Language Testing Research Colloquium Call for Papers

The 20th Annual LTRC, the official conference of the International Language Testing Association, will be held March 9-12, 1998, at the Holiday Inn Resort-Monterey in Monterey, California. It will be organized around the broad theme, Inter-relationships between language pedagogy and language testing. Further information may be requested from the conference organizer: Commandant, Defense Language Institute, Foreign Language Center, ATFL-EST: Dariush Hooshmand, Chair, 1998 LTRC, Monterey, CA93944-5006.

http://www.surrey.ac.uk/ELI/ilta

第21回LTRC'99開催について

LTRC'99 (1999 Language Testing Research Colloquium) は，本学会が日本での招致学会として，平成11(1999)年7月に横浜で開催することに決定。AILA'99の会期に合わせて直前の3～4日間の開催を計画している。

LTRCというのは，1979年から行われている言語テスト専門家会議である。毎年1回の会議は主に米国で開催され，AILAの開催時はその主催国で開かれてきたのが慣例になっている。この会議の母体は，ILTA(The International Language Testing Association)，国際言語テスト学会である。従って，ILTA (President: John Clark)の正式の会議ということになる。

1999年7月開催に向けて準備に取りかかり始めたが，わが国での国際大会の開催にはかなりの経費が見込まれる。この費用の捻出が懸案事項となっている。アジア地域では最初の会議なので，周辺の多くの国々に呼びかけて，参加者を募ることも計画中である。

会費の振替日は10月20日

会費の納入については皆様のご協力をいただきましてありがとうございます。会費の「口座振替」は，事務作業の負担軽減と，経費節約を目指しております。当初は5月末日までに手続きを終える予定でおりましたが，なかなか依頼書が出揃わず，結局7月末までにご返送があったものを手続きさせていただくことになりました。

「口座振替依頼書」の提出には戸惑いがあったことでしょうが，学会が皆様の許可を得ずに，勝手に口座からの引き落としなどはありえませんのでご安心ください。また，金融機関の変更や，中止，退会はすぐにできますのでその旨，FAXでお知らせください。所属機関からの会費納入などで，この納入方法が不都合な方はお知らせくださるとそれなりに対応いたします。(事務局)

第1回全国研究大会について

(JLTA)

日時：平成9年11月8日(土)

大会テーマ：言語教育と測定・評価との関連について

日程：PCワークショップ　9:00～11:30(1．テスト・データの分析法　2．Internetによる文献検索・資料収集の方法)

昼食	11:30～12:30	開会式	12:30～12:45
総会	12:45～13:00	研究発表	13:00～14:30
シンポジウム	14:45～17:00	懇親会	17:10～19:00

☆発表の申込締め切り：9月30日

☆研究・実践研究の発表者募集：発表資格は応募の時点で会員であること(非会員は入会の手続きをすること)。

☆発表の申込み：一般研究発表及び事例研究発表(コンピュータ室が使用できるのでPCを使用した発表など)などの申込みは，発表概要をA4版用紙1枚に，タイトル，所属，氏名と，研究の目的，仮説，方法，結論などを，日本語の発表の場合は1000字程度，英語の発表の場合はdouble spaceで約30行程度にまとめて，オリジナルを含めて3部を，応募用紙と共に送付してください。申込み後，直ちに採否をご通知します。

☆提出の原稿は必ずプリンター印字したものであること(原稿は大会要綱に掲載用として写真製版する)。

☆送付先：〒185 国分寺市南町1-7-34　東京経済大学　中村優治研究室　外国語教育評価学会全国研究大会係

研究大会を成功させるために，多数の応募をお待ちしております。

JLTA第1回全国研究大会発表申込用紙

1997年　月　日

氏　名　(ローマ字)

住　所　〒

電話：　FAX：　e-mail：

所　属　(英語名)

身　分　1 専任　2 非常勤

発表タイトル(日本語)

(English)

発表言語　1 日本語　2 英語

使用機器　1 OHP　2 PC(windowsのみ)　3 VCR　4 カセットテープレコーダ

§§§以上の書式を複写してご使用ください§§§

会誌第１号発刊について

学会は会員の研究促進を行うところであり，さらに，直接的・間接的な社会貢献を行うべきことも鑑みて，会誌（紀要）第１号の発刊の計画を立て，準備に取りかかりました。まだ案の段階ですが，まとまっているところはおよそ次のようなものです。

- サイズはＢ５版２段組。ページ数は約 80 頁。
- 内容は，学術論文，実践報告，研究ノート，資料，書評，活動報告等々の予定。
- 執筆希望者は，９月 30 日までに執筆予定の論文・報告等のタイトルと概要を FAX，または E-MAIL で事務局までお知らせください。送付方法，執筆要領等（作成中）をお送りいたします。
- 原稿締切は，平成 10 年１月 15 日（必着）。
- 発行は，平成 10 年３月末日を予定しています。
- 論文等は編集担当者と審査員等で掲載の審査をさせていただきます。書き直しや加筆等の指示がありましたら，それに従っていただくこともあります。

上記の企画が成功するかどうかは応募論文等の数や，さらに問題となるのは印刷費用です。現在の会員数の会費ではとても費用に割けるのは僅かになりますので，掲載論文等（依頼原稿を除く）には１頁当たり 1000 円程度（製本仕上がり１頁につき）の負担をしていただくことを考慮中です。大変，心苦しいことなのですが，ご了解をいただき，ぜひ多数の皆様がご応募してくださることを期待しております。

MELTA 参加報告

マレーシア英語教育学会（Malaysian English Language Teaching Association）は５月 19 日～21 日にマレーシアの Petaling Jaya Hilton, Petaling Jaya で開催された。約 350 人の内外からの参加者があり，発表内容も盛りだくさんで，私にとっては有意義な学会であった。ひとつ残念だったことは英国からの参加予定で keynote speaker の一人だった Charles Alderson 氏が来られなくなったために，期待していた講演が聴けなかったことである。ちなみに発表のタイトルは，Technology and Language Testing – Treat or Opportunity であった。発表件数総数 77 件のうち，テスト，測定，評価に関係する研究発表の数は非常に少なかったが，それぞれの研究会場では，テストに関心を持つ参加者が熱心に議論をしていた。筆者の発表は，The Construct of Reading for Testing.（中村優治：東京経済大学）

本会へのご入会について

本会は設立間もない学会ですので，まだよく知られていないのが実状です。本会の存在を知らせ，ひとりでも多くの方々に会員になっていただくようお勧めくださることをお願い申しあげます。下記のような「入会のしおり」を作成してみましたので，複写してご使用ください。

ご入会のしおり

本学会は昨年（平成８年）12 月に設立されたばかり，本格的な活動は始まったばかりです。年４～５回の例会では外国語教育と測定・評価に関連する様々な分野の発表を通じて，会員相互の自由な意見交換と研究の育成に努力しております。また，ニューズレターや会誌（紀要）では情報の交換や研究の育成，促進を目指しています。ひとりでも多くの方々のご入会をお待ちしております。

ご入会の手続きは下記のようになっています。

・年会費について（前納制）は個人会員￥10,000，入会金￥1,000（入会時のみ）の合計 11,000 円を郵便局に備 えつけの振替用紙にて納入してください。郵便振替は，　００２２０－７－７３６９，外国語教育評価学会，となります。

翌年度より，銀行や郵便局の「口座振替」での納入となります。所属機関からのお支払いにより，「口座振替」が不都合な場合はお知らせください。郵便振替にて会費の納入が確認されますと，「会員申込書」「口座振替依頼書」及び最新の newsletter 等が送付されます。

原稿募集

Newsletter 第１号が出来上がりましたのでお届けいたします。つきましては，次号（10 月初旬発行予定）の原稿を募集します。この newsletter を会員相互の情報交換の場として活用し，学会情報，授業のこと，研究のこと，会員の著書紹介やその他の学術情報を事務局までお寄せください。FAX でもかまいませんが，できることなら E-mail でお願いいたします。

外国語教育評価学会（JLTA）

事務局　〒235　横浜市磯子区洋光台 6-29-6
TEL. & FAX . 045(833)5610

E-mail: ishikawas@jsn.justnet.or.jp